

償却資産申告書の提出先について

令和3年分から償却資産申告書の提出先を京都地方税機構としていますが、この特例措置の申告を伴う場合は城陽市へ提出してください。

令和3年7月xx日

(宛先) 城陽市長

住所 (所在地) 京都府城陽市寺田東ノ口〇〇番地

氏名 (名称) 〇〇〇株式会社

代表者氏名 城陽 太郎



業種名 食品製造業

連絡先 0774-xx-xxxx

新型コロナウイルス感染症等に係る固定資産税及び都市計画税に対する申告  
日中連絡が取れる電話番号を記入してください。

地方税法附則第63条(※)に規定する新型コロナウイルス感染症等に係る中小事業者等の家屋及び償却資産に対する固定資産税及び都市計画税の課税標準の特例措置について下記のとおり申告いたします。  
※令和2年12月31日以前は附則第61条

記

会計帳簿等を元に、全ての事業収入の合計額を記入してください。

1 事業収入割合について

令和2年4月1日から同年6月30日 令和2年2月から10月までの連続する3月を記載			左の期間の前年同期		
4月期	5月期	6月期	4月期	5月期	6月期
800,000 円	300,000 円	400,000 円	1,500,000 円	2,300,000 円	800,000 円
合計: 1,500,000 円 ... ①			合計: 4,600,000 円 ... ②		
事業収入割合: 32 % ( ① / ② ) ※小数点以下切り捨て					

- 50%以下 (地方税法附則第63条第1項第1号に該当)  
(=事業収入が前年同期比で50%以上減少している場合 軽減率: 全額)
  - 50%超 (地方税法附則第63条第1項第2号に該当)  
(=事業収入が前年同期比で50%未満減少している場合 軽減率: 1/2)
- 該当する口に✓をつけてください。

2 特例対象資産について

申告の有無	資産	通知書番号
<input type="radio"/>	事業用家屋 (別紙のとおり)	xxxxxxxxxx
<input type="radio"/>	償却資産	xxxxxxxxxx

- ※1 申告する資産に○をつけてください。
- ※2 償却資産については、毎年行われる申告をもって特例対象資産とする。この申告書のほか、令和3年度の償却資産申告書の提出が必要。  
納税通知書に記載の通知書番号を記入してください。

### 3 誓約事項について

以下の（１）から（４）について、事実に相違ないことを誓約します。

- (1) 「1 事業収入割合について」に記載した事業収入割合の減少は、新型コロナウイルス感染症及びそのまん延防止のための措置の影響によるものであること。
- (2) 申告者は、風俗営業等の規制及び業務の適正化等に関する法律（昭和23年法律第122号）第2条第5項に規定する「性風俗関連特殊営業」を営んでいないこと。
- (3) （申告者が資本若しくは出資を有する法人である場合、）申告者は、資本金の額若しくは出資金の額が1億円以下であり、かつ、次に掲げる事由のいずれにも該当しないこと。
  - ① その発行済株式又は出資（その有する自己の株式又は出資を除く。②において同じ。）の総数又は総額の2分の1以上が同一の大規模法人（※）の所有に属している法人
  - ② その発行済株式又は出資の総数又は総額の3分の2以上が大規模法人の所有に属している法人

※「大規模法人」とは租税特別措置法施行令第27条の4第12項に規定する大規模法人のことをいう。
- (4) （申告者が資本若しくは出資を有しない法人又は租税特別措置法第10条第7項第6号に規定する中小事業者である場合、）申告者は、常時使用する従業員の数が1,000人以下であること。

#### 【認定経営革新等支援機関等確認欄】

上記1～3の申告内容について、記載どおりである旨確認しました。

住所（所在地） 城陽市寺田〇〇〇〇〇〇〇〇

氏名（名称） □□税理士事務所

代表者役職 所長

代表者氏名 京都 三郎

この欄は、認定経営革新等支援機関等が確認したことを記入する欄です。  
認定経営革新等支援機関等の確認を受けてから申告してください。

認定経営革新等支援機関等担当者名 久世 次郎

認定経営革新等支援機関等電話番号 0774-xx-xxxx

認定経営革新等支援機関等担当者メールアドレス xxxx@xxxx.xx.xx

（備考）1. 用紙の大きさは、日本産業規格A4とする。

2. 本申告において、申告すべき事項について虚偽の申告をした者は、地方税法附則第63条第4項又は第5項の規定に基づき1年以下の懲役又は50万円以下の罰金に処される場合があることに留意すること。

3. 「連絡先」については、日中連絡がとれる電話番号等を記載すること。

4. 「氏名（名称）」については、個人事業主にあつてはその氏名を、法人にあつてはその名称を記載すること。

5. 「業種名」については、日本標準産業分類における中分類で記載すること。

6. 本特例の申告にあつては、事前に認定経営革新等支援機関等の確認を受けること。

7. 本特例の申告は令和3年2月1日（消印日有効）までに、城陽市長に行うこと。

8. 申告内容と現在の課税の状況が異なる場合、評価の見直しを行う場合があることに留意すること。

事業用家屋について特例適用を受けようとする場合は、この別紙も提出してください。

(別紙) 特例対象資産一覧

例

家屋の所在		床面積	
所在	○町×丁目△番地□	134.60 m <sup>2</sup>	うち事業用
家屋番号	△番地□		67.3 m <sup>2</sup>   50%
所在	寺田○○○□□番地△	113.14 m <sup>2</sup>	うち事業用
家屋番号	□□番地△		45.26 m <sup>2</sup>   40%
所在		m <sup>2</sup>	うち事業用
家屋番号			m <sup>2</sup>   %
所在			うち事業用
家屋番号			m <sup>2</sup>   %
所在		m <sup>2</sup>	うち事業用
家屋番号			m <sup>2</sup>   %
所在		m <sup>2</sup>	うち事業用
家屋番号			m <sup>2</sup>   %
所在		m <sup>2</sup>	うち事業用
家屋番号			m <sup>2</sup>   %

固定資産税・都市計画税 土地・家屋 課税明細書の「課税地積又は床面積」の床面積を転記してください。  
\* 「土地」及び「事業用家屋以外の家屋」は特例の対象外です。

「青色申告決算書」等に記載されている事業用専用割合を記入してください。

左記の「床面積」に右記の「事業用専用割合」を乗じて算定してください。(小数点第3位を切上)

- ※1 前年度における課税明細書に記載の単位で記入すること。(前年度における課税明細書に記載のない家屋については、家屋番号の単位で記入すること。)
- ※2 事業専用割合が分かる資料(青色申告決算書等)を添付すること。
- ※3 認定支援機関等の確認を受けた後、資産の異動・取得等があった場合には再度提出の上、確認を受けること。
- ※4 償却資産については、毎年行われる申告をもって特例対象資産一覧を提出したこととなること。